

## 成長続ける「鉄道の街」

JR京浜東北線・大宮駅

(さいたま市大宮区)

JR京浜東北線に揺られて終点まで。車窓から高架の新幹線、地下へ潜る埼京線が見えた。JR東日本の車両を整備する大宮総合車両センターがあり、新幹線5路線を含む12路線が乗り入れる大宮は、「鉄道の街」と呼ばれる。

改札を抜けると、駅構内正面で「まめの木」が迎えてくれた。1985年、大宮駅開業100年と埼京線開業にあわせて設置されたモニユメント。童話「ジャックと豆の木」にちなみ、街が成長するよう願いが込められている。西口側の大宮ソニックシティ地下1階には、埼玉県の優良産品を販売する「そぴあ」がある。狭山茶や草加せんべい、地酒、民芸品などが所狭しと並んでいた。

容量が多いので、最近では「美容室通り」とも呼ばれる。ブティックや古着屋も多く、おしゃれな通りだ。地元の「リーグチーム」大宮アルディージャのチームカラーのオレンジ色に塗られた街灯が並び、古着店などで道草すると時間を忘れそうだ。400軒ほど行くと、氷川神社二の鳥居。参道沿いの「氷川だんご屋」から、しょうゆの焼ける香ばしいにおいが漂ってきた。店主の鮎島(はいしま)徳治さん(61)に「しょうゆの焼き団子と、のりをまぶしたのが人気だよ」と言われ、つい手が出た。しょうゆがよく染みた団子を味わいながら、活気に満ちた参道を歩くのは楽しい。

少し回り道をして、駅北側に架かる大栄(だいえい)橋へ向かった。次々と電車が走り抜ける橋上からの眺めは、鉄道「街」の縮図のよう。東京・神田にあった「交通博物館」が大宮区の

JR用地に移転し、10月には「鉄道博物館」としてオープンする。「まめの木」に見守られ、街は成長を続けている。(さいたま支局 早川悦朗)

### メモ

優良県産品販売センター「そぴあ」は、県内の名産品約700点を販売している。営業時間は午前10時～午後5時。日曜、祝日休み。氷川神社の参拝時間は午前6時～午後4時半。鉄道博物館は10月14日にオープンの予定。

